

# 大池中学校だより

令和7年9月19日(金)発行:校長

## 戦後80年。今だから平和を考える No.2

戦後80年。恒久の平和を願い、今私たちに何ができるのかを考える意味でも重要なこの1年。

今年8月6日(水)広島市で行われた『平和祈念式典』で、「こども平和のつどい」に参加した世界12ヶ国の子ども代表の小学6年2名の「平和への誓い」から。  
「One voice. たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはず。大人だけでなく、子どもである私たちが平和のために行動することができます。」

代表で「平和の誓い」を読み上げた小学6年生の男子児童は、毎週のように休日等を利用して、広島平和記念資料館および、記念公園周辺等でボランティア活動を継続しています。平和記念資料館を訪れる外国からの人々に、メッセージボード(戦争の悲惨さや悲しみ、未来に向けての平和を願うもの)にまとめて、3歳くらいから学んできた英語を活用してコミュニケーションをとりながら、1945年広島に何が起きたのか……。その事実を発信していく活動をしています。今、自分に何ができるのかを考えた、彼の純粋な思いとして……。

### 平和への誓い

#### いつかはおとずれる、被爆者のいない世界。

同じ過ちを繰り返さないために、多くの人が事実を知る必要があります。

原子爆弾が投下されたあの日のことを、思い浮かべたことはありますか。

昭和20年(1945年)8月6日 午前8時15分。この広島に人類初の原子爆弾が投下され、一瞬にして当たり前の日常が消えました。

誰なのかわからないくらい皮膚がただれた人々。涙とともに止まらない、絶望の声。一発の原子爆弾は、多くの命を奪い、人々の人生を変えたのです。被爆から80年が経つ今、本当は辛くて、思い出したくない記憶を伝えてくださる被爆者の方々から、直接話を聞く機会は少なくなっています。どんなに時が流れても、あの悲劇を風化させず、記録として被爆者の声を次の世代へ語り継いでいく使命が、私たちにはあります。

3年生のみなさんは、修学旅行の広島平和記念資料館を見学して、強く感じるものがあるのではないのでしょうか。2年生のみなさんも平和学習で「平和への誓い」についても学習しましたね。



世界では、今もどこかで戦争が起きています。大切な人を失い、生きることに絶望している人々がたくさんいます。その事実を自分のこととして考え、平和について関心を持つこと。

多様性を認め、相手のことを理解しようとする。一人一人が相手の考えに寄り添い、思いやりの心で話し合うことができれば、傷つき、悲しい思いをする人がいなくなるはず。周りの人たちのために、ほんの少し行動をすることが、いずれ世界の平和につながるのではないのでしょうか。

この言葉は、大池中学校が大切にしていきたい「関わることを通して、人権が大切にされる『仲間づくり』」にもつながるとしても大切な内容です。

One voice. たとえ一つの声でも、学んだ事実に思いを込めて伝えれば、変化をもたらすことができるはず。大人だけでなく、こどもでもある私たちが平和のために行動をすることができず。あの日の出来事を、ヒロシマの歴史を、二度と繰り返さないために、私たちが被爆者の方々を語り継ぎ、一人一人の声を紡ぎ(つむぎ)ながら、平和を創り上げていきます。

令和7年8月6日 こども代表 広島市立皆実小 6年 関口 千恵璃 広島市立祇園小 6年 佐々木 駿

この「平和の誓い」から、平和を願う人々の心からの祈りを感じました。「平和への誓い」の内容から、大池中学校が大切にしている「人権学習」についても同じことが言えると思います。それは「仲間づくり」です。

学校は、学級は安全で安心できる一人ひとりの大切な居場所です。大切な仲間と、先生と一緒に過ごし、笑い合ったり、一緒に悔しがったり……。そんな当たり前の日常が幸せだと思います。しかし、「心ないいじめ」によってその当たり前の幸せは崩れてしまいます。「いじめ」は人間の心の弱さから発生するものだと思います。クラスの中でも、学年の中でも、部活動の中でも「平和への誓い」につながる大切なことがあります。

「本当の強さとは、違いを認め、相手を受け入れること、思いやりの心を持ち、相手を理解しようとすることです。」本当の強さをもてば、『いじめは起こらない』はず。クラスは、学校は一人ひとりにとって安全で安心できる大切な居場所なのです。2学期は「向上期」という大切な学期です。体育祭、文化祭を中心に多くの行事が行われます。その成果を発揮できる、そして、その土台をもとに仲間とともに向上できる学期が2学期です。

前回の「学校だより第24号で紹介」した3年生 ○○ ○○ ( ) さんの人権作文に続き、今回は、2年生の「平和学習の振り返り」から、代表して3名の感想文を紹介します。

- ・平和学習の振り返り ■2年○組 ○○ ○ ( ) さん
- ・平和学習の振り返り ■2年○組 ○○○ ○○○ ( ) さん
- ・平和学習の振り返り ■2年○組 ○○ ○○ ( ) さん

【2年○組 ○○ ○ ( ) さん】

戦後から80年たった今では、昔と比べ体験者の高齢化が進み、あと3～5年後には直接被爆された方々の話を聞くことができなくなると思う。だけど、Youtubeや市町村のHPなどでも大切な記録として残っているのだから、被爆者や戦争体験をされた方々の思いを、これからも途切れずに伝えていかなくてはならないと思う。今の日本は平和だけど、外交では領土問題やミサイルなどの課題があるので、それらを争いに変えない、変えてはいけないと思う。戦争って、けんかが発展したものだから、お互いが冷静に話し合っ、けんかと一緒に解決すべきだと思う。関係ない人々を巻き込む必要はない。

【2年○組 ○○○ ○○○ ( ) さん】

被爆した方々のお話を聴いて、その悲惨さを想像することはできても、真にその状況を理解できることはきっとないのだと思いました。戦争によって亡くなった方は、人間のような亡くなり方をしていない。生き残っても「申し訳ない」と思うってしまう人がいる。そんな状況には、二度としてはいけない。だから戦争はしてはいけないのだと私も思いました。私は戦争によってなくなった命があったこと、今の人権のある平和な世の中の尊さを忘れないことを大切にしていきたいです。

【2年○組 ○○ ○○ ( ) さん】

唯一の被爆してしまった国だからこそ、「核兵器」のことについて、今、できることがたくさんある気がしてきました。被爆者は地獄のような町や、人を見たから、戦争なんてやってはいけないと言っているのだから、この人たちがいなくなってしまうときは、ちゃんと私たちが子どもに伝えていきたいと思いました。

世の中には、テレビでは放送がされることがない戦争もあることが分かったので、これからは、今起っている戦争について、インターネットなどで調べて、自分ができないことがないか探してみたいと思った。

2回にわたる「学校だより」では、平和について考える内容を、一緒に考えてほしい内容を、みなさんに紹介してきました。最後に、大池中学校図書室に新刊として購入してもらった1冊の絵本の紹介から・・・(この絵本は第12回 MOE 絵本屋さん大賞「第5位」になった名作です)

書籍名 『へいわとせんそう』 作者：たにかわ しゅんたろう



『戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない』 (ユネスコ憲章)

「へいわとせんそう」。新たに大池中学校図書室に購入してもらいました！

作者の「たにかわ しゅんたろう」さんが、この書籍「へいわとせんそう」にどんな想いを込めたのでしょうか？私(校長)は、学校だより第24号でも記した言葉『当たり前日常の幸せ』。その想いをこの本から強く感じました。なぜ、戦争によって犠牲になるのは、いつも何の罪もない老人、

女性、そして、みなさんと同年代のこれからの人生にいつかの夢を見ている子どもたちなのでしょう。当たり前に来る明日を、一生懸命に生きたかった子どもたち。戦争が、大切な子どもたちの日常の幸せを奪っています。機会があれば「へいわとせんそう」の本を手にとってほしいです。谷川 俊太郎さんは、3年1組のクラス合唱曲「信じる」の作詞をされた日本を代表する詩人です。

